

週 報

1998年10月25日 降誕前第9主日

特別伝道礼拝

巻 19

30号

1998年度 教会主題

「恵みの座に近づこう」

聖句 だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜に
かなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に
近づこうではありませんか。

へブライ人への手紙 4章16節

- 目 標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 一人が一人を伝道する。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

横浜市港南区港南台7丁目8-29

郵便番号 234-0054

電 話 045-833-5323

F A X 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

支え合っている。彼女たちとの交わりを通して、一人一人の名を呼んで求めてくださる神、そして私の生を丸ごと受け入れてくださる神を知らされた。傷は癒され、赦しの祈りをしていけると「自分自身」を回復した。ブラジルの大地で心やさしく生きている人々と出会い、問題を共有化した時、私は私であって良いとの神にある肯定を嬉しく体験した。アイデンティティという自己確立は、ただ自分を掘り下げるのではなく、隣人・社会との関わりの中で得られる。そして、新しい宣教へのビジョンを与えられていると結ばれた。

ルカ福音書 15章、女性を主人公にした「無くした銀貨のたとえ」は、当時蔑まれ生存権さえ奪われていた女性たちは聞き耳を立てて聞いた話に違いない。そして、失われていた彼女たちを求めてやまない神の愛は救いであった。師は、このイエス・キリストのたとえとご自分の体験をダブらせて、喜びへと招いてくださる福音を力強く語られた。教会も人も生きているから病むが、福音は必ず回復を約束してくださる。

◇牧師室から◇

小井沼真樹子宣教師が説教してくださいました。先週の「サンパウロ宣教報告会」では「苦悩と挫折」の報告だったが、今日はそれからの「復活編」を話しますと始められた。私たちの教会で説教してくださいました堀江神父はブラジル東北部のジョン・ペソアで司牧(牧会)しておられた。師はその基礎共同体を度々訪問し、姉妹たちと親しい交わりを続けていた。幼稚園と教会問題で傷ついていた時、ジョン・ペソアの姉妹から「訪ねて来てほしい」との手紙を受け取った。言葉が通じないことを心配したが、勇気をもって一人で訪ねた。久しぶりの再会を喜び、「マキコ、マキコ」と呼んでもてなしてくれ、言葉の心配は無用で心が結び合った。彼女たちの大半は母子家庭で、経済的には大きな困難の中にある。しかし、決して人を排除せず広い心で互いを受け入れ